

# 在宅ホスピスケア

## ◆在宅ホスピスケアとは

在宅ホスピスケアとは、がんなどで治療が期待できない状態になった患者さんへ、病院という医療環境ではなく、自宅に戻り自分らしく安楽に過ごせるよう支援する活動のことです。

## ◆今、どうして在宅ホスピスケアが必要なのか

超高齢化が進んでいる中、20年後には約160万人以上のかたが亡くなる試算が出ています。その時の全国の病院の病床数は約110万床で、50万床足りない状況だけではなく、病気の治療目的で入院を希望しても病床が足りない状況となります。

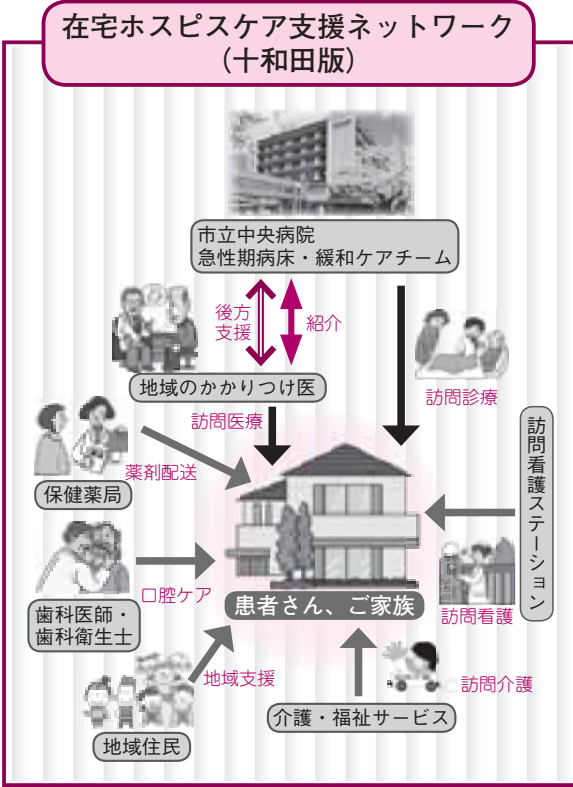
国では、病院だけではなく地域で看取りを支える体制を作るために、今年から本格的な取り組みを開始しています。

## ◆中央病院の取り組み

当院では5年前から「在宅ホスピスケア」の支援ネットワークづくりに着手し、支援の輪を広げています。この支援ネットワークに参加するのは医療支援チームと地域支援チームで、十和田市および周辺地域（六戸町・七戸町・東北町）を担当し、遠距離地域では、地域の開業医と連携をとっています。

## がん相談支援センター

☎ 5121 (内線3145)



## ■中央病院のこれまでの取り組み実績

	H19年	H20年	H21年	H22年	H23年 (4~10月)
在宅患者数	49	75	82	79	63
訪問診療延べ件数	-	-	181	365	214
在宅死亡者数	44	65	40	46	40

NSTとは、Nutrition Support Team（ニュートリションサポートチーム《栄養サポートチーム》）の頭文字をとったものです。医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、言語聴覚士、臨床検査技師など多職種で構成されており、それぞれの職種の視点から患者さんの栄養状態などを評価、検討をしています。

患者さんは手術後や高熱が出た場合などに、より多くのエネルギーを消耗します。そして、病気のため食欲がないなどさまざまな要因で食べられなくなり、栄養状態が低下していきます。栄養を十分に補わないと回復が遅くなり、入院日数が延びてしまう場合があります。

NSTは、そのような患者さんに必要な栄養をどのようにしたら取ってもらえるかを検討し、早期に栄養状態の改善を図ることで、より早く治って元気になってもらうために活動しています。

毎週木曜日にチームメンバーが集まり、栄養改善が必要な患者さんの資料を基にカンファレンスを実施しています。患者さんの状態を把握し、食事を口か

## ～NST（栄養サポートチーム）～

☎ 5121 (内線2292)

## 中央病院のチーム医療！



▲NSTの勉強会の様子

ら取るか、体外からチューブを用いて流動食を投与するか、高カロリー輸液を使用するかなどの栄養補給ルートの選択や病気によりどのような栄養の制限が必要になるかなどについて話し合われます。

カンファレンスでの話し合いを基に、対象患者さんを訪問、評価し、栄養状態の改善について主治医に提言しています。

また、チームメンバーの知識を共有するため、月に一度各部署主催で勉強会を実施しています。この勉強会には、院内の職員、地域の病院や施設のかたなどにも案内し、興味を持ったかたが参加しています。

1月に行われた栄養補助食品についての勉強会では、他の病院や施設のかたと活発な意見交換が行われました。